

びまん性汎細気管支炎における、非結核性抗酸菌の検出率に関する検討

—当院におけるレトロスペクティブ研究—

【研究の目的】

びまん性汎細気管支炎（DPB）は、慢性的な咳と大量の喀痰、息切れを特徴とする病気で、肺炎などの感染を繰り返し、肺の構造が変化し気管支（空気の通り道）が拡張する病気です。この病気になる原因は分かっていませんが、遺伝や環境が影響し、本来なら気道をきれいにする粘液線毛クリアランスの機能が低下することが一因ではないかと言われています。以前までは予後不良の疾患でしたが、エリスロマイシン少量長期療法の効果が報告されてからは死亡率が急速に低下し、軽快しうる病気になりました。

欧米諸国にはDPBと症状が似た、嚢胞性線維症という病気があります。この病気もDPBと同様に、粘液線毛クリアランスの低下により、慢性的な咳・痰・繰り返す感染・気管支拡張を特徴とする病気です。欧米諸国では嚢胞性線維症において、非結核性抗酸菌という種類の菌にしばしば感染することが分かっており、難治性のため、臨床的に問題になっています。

DPBの患者さんにおいて、非結核性抗酸菌がどのくらいの割合で検出されるかは先行研究がなく、よく分かっていません。私たちは、DPBの患者さんにおいても、同じように非結核性抗酸菌の検出率が高いのではないかと考えており、この研究を行うことにしました。

【研究の概要】

本研究においては、2000年1月–2012年12月に当院呼吸器内科へ入院・あるいは通院されたDPBの患者さんを対象とし、これまで当院で行われた喀痰抗酸菌検査の結果を参照し、DPBの患者さんのうちのどのくらいの割合の方々から非結核性抗酸菌が検出されているかを調査します。また、DPBの患者さんの診療記録を参照し、性別、年齢、喀痰検査、呼吸機能検査、胸部CT検査などの検査結果を集計します。

【患者さんをお願いしたいこと】

基本的には過去の日常臨床で行われた検査結果の調査です。この研究を開始した2011年の7月以降の期間においても、現在通院中の患者さんには日常の临床上必要な範囲で喀痰抗酸菌検査や一般細菌検査を施行している場合がありますが、その結果も、2012年12月末まで行われているものについては研究の結果の一部となります。研究のためにこれから患者さんの負担となるような行為はありません。

また、調査が開始してから判明した各種検査の異常には、日常臨床どおり対応しています。この調査の対象となっていることによって、研究的な投薬や治療が行われることはありません。

【研究内容の開示について】

研究計画書や、研究に関する資料は、ほかの患者さんの個人情報保護に抵触しない限り閲覧が可能です。

【研究結果の発表について】

本研究の結果が、学会や医学誌で発表される場合がありますが、患者さんの氏名、生年月日、住所などの、個人を特定できる情報、プライバシーにかかわる情報は一切公開されません。また、研究の途中過程においても匿名化され、これらの情報が漏れることのないよう細心の注意を払っております。

【研究の拒否について】

上記条件に該当する患者さんの中で、本研究への協力を拒否される場合は、いつでも参加を取りやめることができます。その際、下記に記しました呼吸器内科の辻貴宏まで御一報下さい。なお、拒否されることで患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

※本研究の知的財産権が生じた場合、その権利は著作権者に属し患者さんには属しません。

担当責任医師：辻 貴宏

連絡先：〒632-8552 奈良県天理市三島町200 公益財団法人 天理よろづ相談所病院

電話番号：0743-63-5611